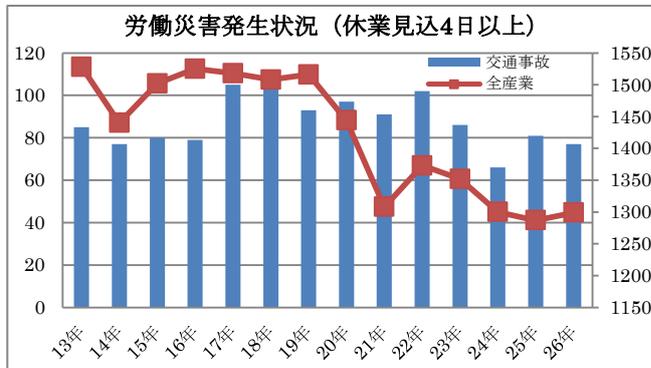


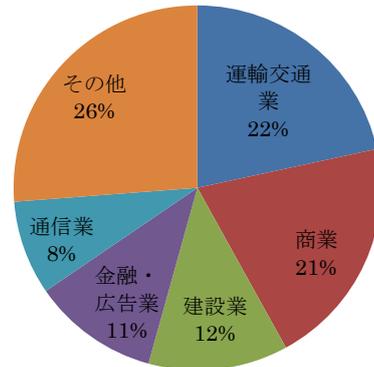
交通労働災害の発生状況

● 年別・業種別交通労働災害の発生状況

宮崎県内の交通労働災害（休業4日以上）の発生状況をみると横ばい状況となっている。また、業種別にみると、交通運輸業22%、商業21%、建設業12%、金融・広告業11%、通信業8%となっている。



交通労働災害の発生状況
休業見込4日以上（H22からH26）

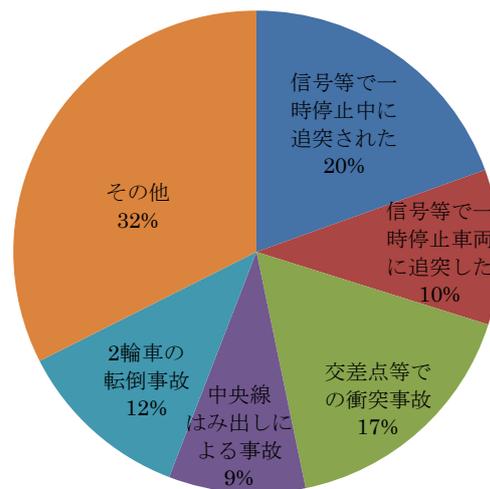


● 発生原因等

平成26年に発生した休業4日以上交通労働災害について、発生原因等をみると、「信号等で一時停止中に追突された」20%、「信号等で一時停止中の車両に追突した」10%、「交差点等での追突事故」17%、「中央線はみ出しによる事故」9%、「2輪車の転倒事故」12%となっており、信号や交差点等での事故（「信号等での一時停止中の事故」と「交差点等での追突事故」）が約半数を占める状況となっている。

「中央線はみ出しによる事故」については、死亡災害の1番の原因であることから、死亡災害になる確率が高いものと推測される。

労働災害（交通事故）の発生状況
休業見込4日以上（平成26年）



● 年齢別、時刻別災害の発生状況

交通労働災害を年齢別にみると、30歳代が最も多く、40歳代、50歳代、30歳代の順となっている。労働災害全体と比較すると、30歳代、40歳代、20歳代の比率が高くなっている。また、時刻別では、午前中に多く発生している。

